

スクール・カウンセラーだより

～寄り添いのまなざしを大切にします～

令和8(2026)年4月 発行

スクール・カウンセラー
やまき まさはる
八巻 正治

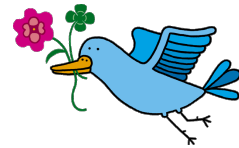
今年度、本校に配属されたスクール・カウンセラー(以下、「SC」と略称します)の八巻正治です。1年間、どうか、よろしくお願いいたします。

私は2011(平成23)年3月11日に生じた東日本大震災当時は宮城県内の被災地域で生活をしていました。そうしたこともあり、今回、能登半島で生じた地震や豪雨災害に想いを寄せ、石川県内に移り住み、昨年度は奥能登地域の小学校でSCをさせていただきました。なお、私は(教育指導ではなく)支援業務に携わる者ですので、「先生」ではなく「やまきサン」と呼びください。

石川県教育委員会が提示しているSCの職務内容は、以下のような内容となっています。

校長等の指揮監督の下に、概ね以下の職務を行う。

- ・児童生徒へのカウンセリング(※)
- ・教職員及び保護者に対する助言・援助
- ・児童生徒のカウンセリング等に関する情報収集・提供
- ・教職員を対象とした校内研修会の実施
- ・児童生徒を対象とした教育プログラムの実施
- ・家庭、地域社会、関係機関との効果的な連携



(※)スクール・カウンセリングとは、保護者さんや、お子さんが、その人らしく、より良く歩むことができるように、ご本人が有する気持ちや考えを大切にしながら、温かな雰囲気の中で丁寧^{ていねい}に寄り添い、支えようとする働きのことです。

さて、私は20代の時期を肢体不自由児の臨床現場で過ごしました。当時はさまざまな面で厳しい状況が多くあったため、心身ともに追^つ詰められた保護者さんから切迫感に満ちた、辛く悲しい言葉^きを聴かされることも多くありました。こうした悲しみの出会いの数々を通して、私はすべての子どもたちが祝福されて生まれ育ち、喜びをもって歩むことができるような状況をつくり上げることの大切さを深く心に刻んだのです。そして、「この子がいたために制約の多い、不運な人生しか歩めなかった…」ではなく、「この子がいたからこそ喜びに満ちた躍動的な歩み^{やくどう}ができた！」とさえも思えるような、お互いを思い遣り^や、支え合うような温かな人間関係や社会の構築を強く願ったのです。

「今、あなたが私の目の前にいてくれて本当にありがとう！」そうした受容的なまなざしで子どもたちに接したいと願っています。非力な者ですが、微力^{びりよく}を尽くしますので、どうかよろしくお願いいたします。

※八巻が直接、お目にかかって、お話を聴かせていただくこともできます。どうぞ学校を通してご連絡ください。